

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題・漢文 1題	試験時間	120分
-----	--------------------	------	------

昨年度は、「音楽」について論じた文章と、「社会」についての考え方を作家が論じた文章とが出題されたが、今年度は、現代社会の「身体イメージ」を論じた文章と、「音楽」に関する文章とが出題された。また、設問では、指示語問題や抜き出し問題などはなく、大問二・問三の「文中の言葉を用いて」という設問以外は、オーソドックスな問いであった。大問一・大問二ともに、本文の読解はそれほど難しくないが、解答が書きにくい問題もあった。全体としては、昨年度よりもやや易化したと言えるだろう。

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	藤田直哉『新世紀ゾンビ論』(筑摩書房 2017年)	渡辺裕『サウンドとメディアの文化資源学——境界線上の音楽』(春秋社 2013年)
頻出度合 ・的中等	入試では稀な筆者の文章である。	入試で頻出する筆者である。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ <b>変化なし</b> ・やや増加・増加)約3750字	分量(減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加)約3700字
難易 前年比較	難易(易化・ <b>やや易化</b> ・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化・ <b>やや易化</b> ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	社会論	問一	記述	標準	漢字書き取り問題。2の「皮膚」が書き間違いやすい。
		問二	記述	やや難	傍線部に関する説明問題。「もうひとつの身体」が不明確であることと、「何に対して」という設問の意図がわかりにくい。
		問三	記述	標準	傍線部の内容説明問題。傍線部の直前の「ボディ・イメージ」の説明と、傍線部の後の具体例をまとめる。
		問四	記述	標準	傍線部の内容説明問題。傍線部に至る文脈を踏まえて、傍線部の後の部分をまとめる。
		問五	記述	やや難	文章全体の論旨を踏まえた理由説明問題。「私たち」と「ゾンビ」の共通性を「論旨」として説明し、それがどのような「体験」を引き起こすかを、最終段落に即して書く。

二	文化論	問一	記述	標準	傍線部の内容説明問題。8ページの傍線部B直後を中心に書く。
		問二	記述	標準	傍線部の内容説明問題。傍線部の後を踏まえながら、「アポリア」のニュアンスを出すことを考える。
		問三	記述	やや易	傍線部の内容説明問題。「文中の言葉を用いて」という指示に従い、傍線部の直後の内容をまとめる。
		問四	記述	標準	傍線部の理由説明問題。「橋幸夫」と対比された「寮歌」本来の姿と、「日本寮歌祭」のあり方の中に、「オーセンティシティ」に結びつくものを読み取る。
		問五	記述	標準	傍線部の内容説明問題。8ページの傍線部Bの前を中心に書く。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

多様なジャンルの文章に触れ、限られた時間と字数条件の中で、的確に解答を作成する能力を養うこと。また、漢字書き取りで失点しないことも重要なので、日頃から漢字の練習を怠らないようにしましょう。

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	---------------------------	------	-------

平安時代の日記、『土佐日記』(紀貫之)からの出題。日記からの出題は 2020 年度の『更級日記』以来。本文は、一月七日の一節で、歌を披露し作歌力を自慢したい男の歌と遠慮がちな童の歌が対照的に示されている。設問は、現代語訳の問題と説明問題(40 字・40 字・50 字の字数制限あり)からなる。昨年より記述字数が減少している。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『土佐日記』(紀貫之)
頻出度合 ・的中等	2021 東洋大、2013 岡山大などしばしば出題されている。
分量 前年比較	分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 5 2 1 字
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化 (変化なし) やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	日記	問一	記述	やや易	基本単語や助動詞・助詞の適切な訳出が求められている。
		問二	記述	標準	二重傍線部イの直前にある和歌をふまえて「波音より大きな泣き声」という点について歌主が揶揄されていることを読み取る。
		問三	記述	標準	「返歌をもらうまでは帰れない」「いたたまれない」といった男の心情を読み取る。
		問四	記述	やや難	歌を事前に用意し得意がって披露した男の歌と遠慮がちに披露した子供の返歌とを対比させ、前者の出来が悪く後者の出来が素晴らしかったことを読み取る。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・基本的な単語や文法についてしっかり学習し、指示語の具体化や省略されている要素の補いに留意して、文脈を踏まえた上で、正しく本文を訳出できるような解釈力を身につける必要がある。
- ・内容説明や理由説明など典型的な記述型設問に対するトレーニングを積み重ね、問で求められていることを過不足なく盛り込み、与えられた字数でまとめることができる記述力を身につける必要がある。
- ・和歌や俳諧、古典常識などについても基本的な知識を習得しておくことが必要である。

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	---------------------------	------	-------

唐の柳宗元「送薛存義之任序」からの出題。本文は薛存義が任地に赴くのを送るにあたって、官吏はどうあるべきかを柳宗元が述べたもの。語句の読み、現代語訳、ひらがなのみの書き下し、75字以内の説明を求める出題形式は例年通りであった。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	柳宗元「送薛存義之任序」
頻出度合 ・的中等	頻出
分量 前年比較	分量 (減少・ <b>やや減少</b> ・変化なし・やや増加・増加) 183字 (昨年度は209字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	論説	問一	記述	やや易	基本的な語句の読み。e「肆」は難。
		問二	記述	標準	現代語訳。「豈惟～又從而～」の累加形と二か所の「之」の具体化がポイント。
		問三	記述	やや易	書き下し。「如～何」と「吾民」の読みがポイント
		問四	記述	標準	内容説明(75字以内)。傍線部中の「不虛取直」と「知恐而畏」の内容を本文全体から具体的に説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・ 儒家や道家などの思想に関するものや史伝、志怪小説など多様なジャンルの文章が出題されているので、問題演習を通じてさまざまな文章に触れておくが良い。
- ・ 語句の読みや書き下しで確実に得点するために、基本句形や重要語句をもれなく習得することが大切である。
- ・ 現代語訳問題に対応するため、日頃から漢字の訓読みや熟語化を通して意味を把握する訓練をすることともに、文章の前後関係をふまえた訳を考える力を身につける必要がある。
- ・ 制限字数 75 字の記述問題は例年出題されるので、内容を字数内でまとめる練習が不可欠である。